

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

# ほっかいどうの社会保障

2012年7月17日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 地域医療を拡充し、住民の命と健康を守ろう！

道と「地域医療」「道立病院事業」「医療費適正化」計画で懇談

「公立病院と地域医療を守る北海道連絡会（事務局・道社保協）」は、7月10日、北海道から、「北海道医療計画」「道立病院事業プラン」「北海道医療費適正化計画」の検討状況についての説明を受け、懇談しました。今後は、「学習交流集会」も開き、地域医療の実態や要求を掴んで、会としても要望をまとめる予定です。

### 地域医療計画 2次医療圏の設定を先行して議論 9月には素案

見直し対象医療圏は10カ所 人口など機械的に見直すな！ アクセスに3時間のところも



計画は、計画特別委員会がすでに2回行い、9月には素案（11月完成）、12月にはパブコメ、地域の意見交換会、2月に原案、議会をへて3月に成案予定。

●2次医療圏の設定を優先させて進め、精神科医療や在宅医療の分野でも検討している。2次医療圏は、人口と入院患者の流出率で見直すことになり、道内21のうち10医療圏が対象に。一方、面積や基幹病院への医療機関へのアクセス（時間）も考慮することになっている。

◇〔会から〕2次医療圏の見直しについては、地域住民の命と健康を守る立場で、機械的な対応をしないでほしい。見直し次第で、基幹病院まで2時間あるいは3時間のところも生まれる。患者の流出率は、その地域に必要な入院機能がないため流出することもあると指摘。委員会の議事録や会議資料の公開を要求（→後日報告。HPへのアップも検討）

### 道立病院プラン 苫小牧病院 閉院、他は「独立行政法人化」を提案

閉院後の結核患者は札幌へ 独法化での経営改善の根拠示せず 自治体と懇談し秋に案作成

来年度からの新たなプランに向けて、①昨年8月に検討委員会を設定し、9回の会議と3カ所の視察を行った。②道が委託した経営コンサルタント会社からの「報告書」も踏まえて、検討委員会の「意見書」がまとめられた。この意見書を関係市町村から意見聴取し、秋には案としてまとめる

【意見書の内容】●苫小牧病院（結核病棟あり）閉院（結核患者減のため）施設の跡地利用検討  
●江差病院【南松山・地域センター病院】、羽幌病院【留萌・地域センター病院】、緑ヶ丘病院【十勝・精神】、向陽ヶ丘病院【オホーツク・精神】、北見病院【オホーツク・循環器呼吸器高度・専門】、子ども総合医療・療育センター【札幌】の6病院 当面存続するが、独立行政法人化

◇〔会から〕苫小牧病院の閉鎖で、地域の結核患者はどうするのか？（→「札幌まで送る」）  
「独立行政法人化」で何故入院患者が3割増えるのか？（→「視察した病院も改善している」）

### 医療費適正化 「医療費の見通し」のみが義務化 国の指示受け今後具体化

第2期（2013～2017年度）の計画は、5月に「検討協議会設置」を決め、国の策定方針案の説明会を受け、8月中には第1回会議を予定。11月頃に計画素案を決定、12月にパブコメ、2月に計画原案を決定し、議会説明、3月には計画決定・公表予定

●方針（改定案）では、「医療費の見通し」のみが義務づけとなった。その他の目標は道の判断。しかし、医療費の根拠は必要になるので、平均在院日数、特定健診・保健指導等の国の方針（計算式など）も踏まえたい。

◇〔会から〕医療費適正化自体は問題で、今でも入院できないで困っている。保健予防活動は重視すべき（太陽政策）ですが、強制的な医療費抑制（北風政策）はやめるべき。検討委員会の傍聴は？（→検討する）

### 地域医療を守る学習・交流集会 8月25日で調整中

政府・厚労省の医療供給体制・抑制政策の問題点も学び、地域医療の現場や要求など交流します。